

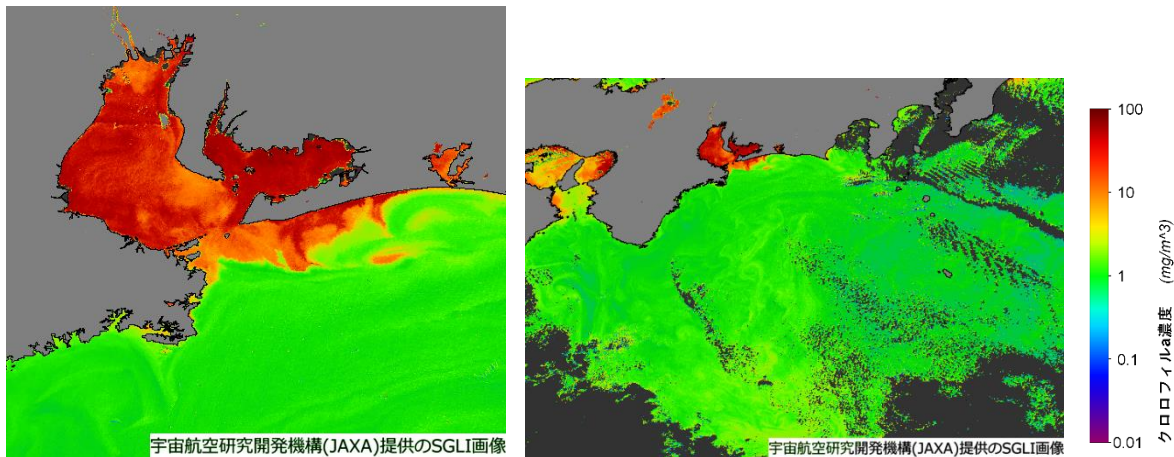
海況速報（クロロフィル a 分布）

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

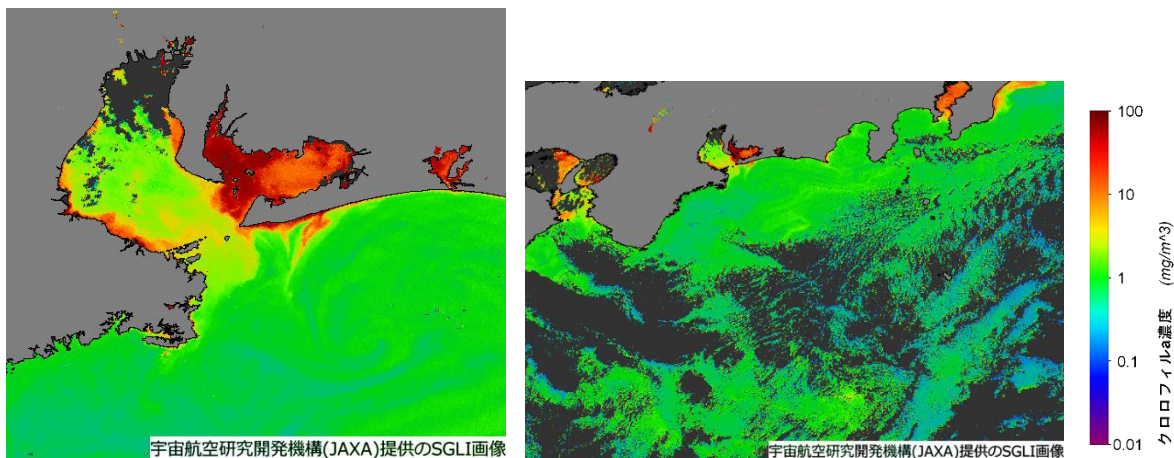
令和2年2月6日

2月4日の衛星画像をみると、1月中旬よりも伊勢・三河湾全域で濃度が高くなっています。湾口～知多半島西岸は、周囲と比べて濃度が低くなっており、外海水の影響を強く受けた水が流入していると考えられます。沿岸水が渥美半島に沿って張り出しています。

しきさいによるクロロフィル a 濃度分布（2月4日）



しきさいによるクロロフィル a 濃度分布（1月20日）

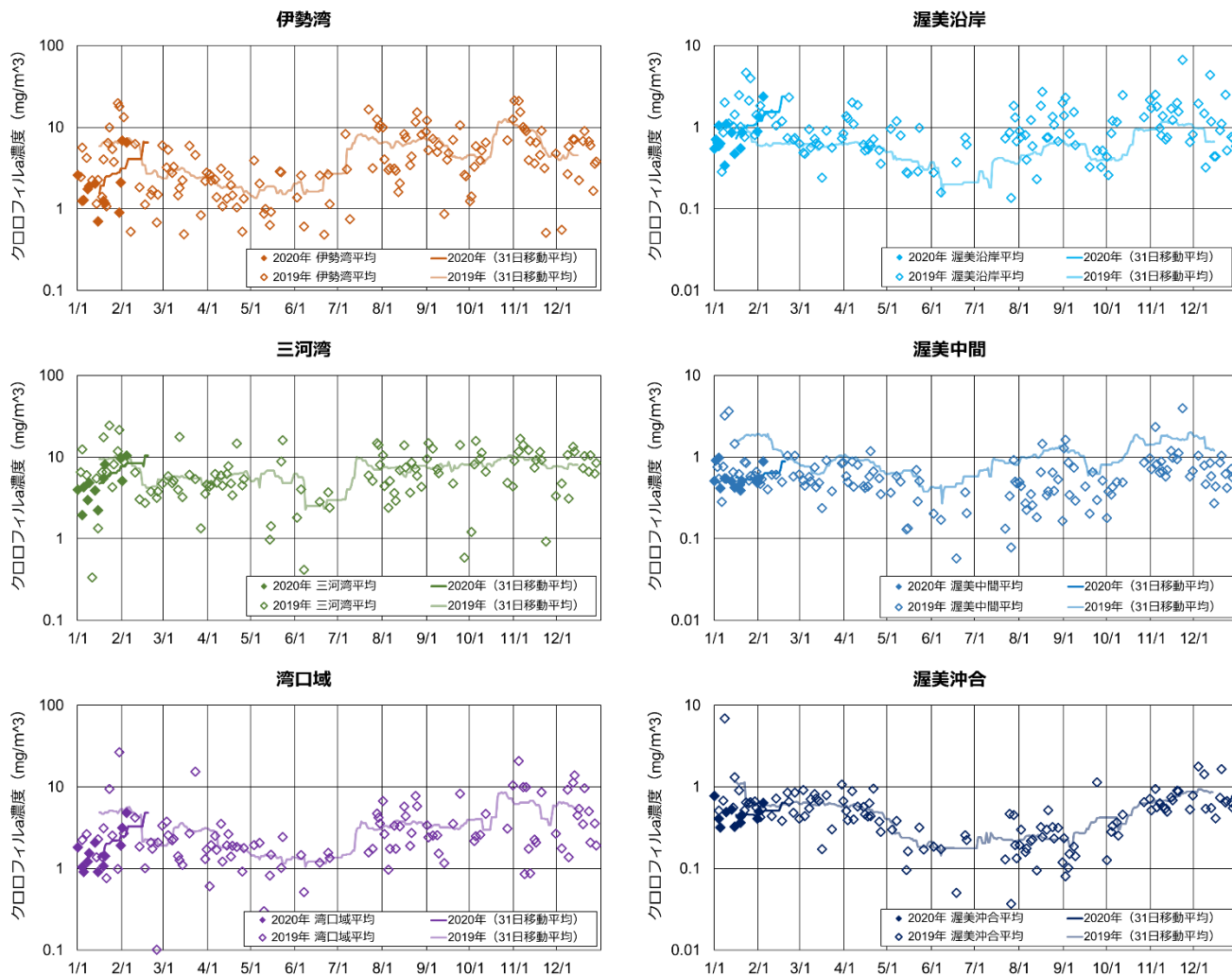


※画像データによるクロロフィル a 濃度は、実際の濃度と異なる場合があります。

また、詳細図と広域図で内湾域の濃度に誤差が生じることがあるため、目安としてご利用ください。

クロロフィル a 濃度の経時変化

クロロフィル a 濃度の経時変化を見ると、伊勢・三河湾および湾口域、渥美沿岸は昨年より低い値の海域がありました。現在まで上昇傾向にあり、昨年並みとなりました。木曾川の河川水位が上昇傾向にあることから、流量が増加し陸域から栄養塩が供給されたためと考えられます。渥美中間・沖合は黒潮から渥美外海へ断続的に暖水が流入しているため、変動は横ばいとなっています。



観測衛星「しきさい」に搭載された SGLI センサーから得られた表層クロロフィル a 濃度をモニタリングしています (令和 2 年 2 月 4 日までのデータ)。

